

静岡市のココが聞きたい

総括質問



平成27年9月30日、10月1日、2日の3日間、25人の議員が総括質問を行いました。質問の一部を抜粋してお知らせします。

「市立大学」設置の検討を

質問 大学の誘致に加え、「市立大学」の設置を検討すべきでないか。

答弁 これまでの調査によると若年層の約半数以上が、大学等への進学を機に市外に転出している。その理由は、「希望する学部が市内にない」など、市内に進路の選択肢が少ないことが主なものと考えている。

市立大学の設置は、若年層の流出の抑制だけでなく、地域に根差した人材の育成や生涯教育に向けた学ぶ場の提供など、多様な可能性に富んだ選択肢である。

また、地元経済界からも大学・学部の新設・誘致について要望されている。

これらを踏まえ、本市における大学高等教育のあり方を検討する中で、市立大学の設置の可能性についても検討していく。

静岡市総合戦略

質問 静岡市総合戦略には、人口流出の焦点である若い女性や高校生等も含め、幅広い年齢層からなる市民の意見を反映する必要があるが、どのように意見聴取したのか。

答弁 女性に対しては、首都圏への転出者及び市外からの転入者を対象に、転出理由や静岡市の印象などを座談会形式でヒアリング調査した。

若年世代に対しては、市内在住の高校生年代3,000人を対象に進路等に関するアンケート調査などを行った。

さらに、各界各層の代表者からなる静岡市創生会議の委員から専門的な意見を聴くなど、限られた時間の中で精力的に多様な視点からの意見を聴取した。

語句説明

静岡市総合戦略

本市の特性に応じて適切に人口減少に対応していくことを目的に、潤いある豊かな生活を安心して営むことができる地域社会の形成などに関し、5箇年の目標や施策の基本的方向等をまとめた戦略。

語句説明

アセットマネジメント

計画的な修繕や適切な維持管理による公共施設の延命化、統廃合などによる資産総量の抑制などにより、将来負担の軽減を図り、都市経営上の健全性を維持していく手法。



質問に答える田辺市長

市営住宅のアセットマネジメント

質問 入居者、入居希望者が安心できるように効率的な市営住宅整備を進めていくためには、現在策定が進められている「市営住宅アセットマネジメント基本計画」が重要である。策定の視点とスケジュールについて問う。

答弁 「アセットマネジメント基本方針」を着実に推進するため、27年度に「市営住宅整備計画」に代え「市営住宅アセットマネジメント基本計画」の策定に着手した。

今後30年を見据え必要な住宅総量を示す「総資産量の適正化」、計画的かつ効率的な改修方法を示す「長寿命化」、用途廃止等による現存資産の活用方策を示す「資産の有効活用」の3つを視点に策定作業を進めている。

年内に素案を作成し、市民の皆さんの意見を踏まえ、28年度早期の公表を目指す。

静岡市らしさを生かした移住促進策

質問 移住促進に向け、都市部からの山村留学などの「教育」や「自然環境」を生かした施策が有効と考えるが、どうか。

答弁 内閣府が実施した「東京在住者の今後の移住に関する意識調査」によると、移住したい理由には、「スローライフの実現」や「美味しい食べ物、水、空気」が多い。また、本市移住支援センター相談員からも、移住希望者の多くは「自然環境」を移住の動機としており、さらに、「就業」「住まい」のほか「教育環境」に関する情報へのニーズも多いと聞いている。

これらを踏まえ、移住受入れ基盤づくりに取り組むとともに、子育て世帯向け移住体験ツアーを実施するほか、本市ならではの豊かな自然環境を生かした移住促進策を実施していく。

知事が唱える「県都構想」への対応

質問 知事の示した工程表及び市民説明会の開催について、どのように受け止めているのか。

また、実質論だけでなく、制度論に踏み込んだ反論をすべきではないか。

答弁 知事の示した工程表は、構想実現に向けて当事者の理解を得る方法や、国や国会等に対して、どう働き掛けるかといった政治的プロセスを示したものではなかった。また、市民説明会についても、慎重な対応を求める本市の意向を汲み取ってほしかった。

大都市制度のあり方については、今後議論の必要があるものと認識しているが、今は、緊急の課題である、地方創生、人口減少対策等の実質論について、県と連携・協力していくことが最優先と考えている。

農業振興計画

質問 「静岡市農業振興計画（平成27年3月）」の策定に当たり、特に留意した点は何か。

答弁 近年、農業者の高齢化が進むなど農業を取り巻く環境が厳しさを増している。

このため、農業が農家経営を支え、地域経済の発展に寄与し、生活を支える礎であり続けるよう思いを込め、本計画を策定した。

策定に当たっては①市民参画による十分な検討を行うこと②本市の温暖な気候などの「強み」と和食のユネスコ無形文化遺産登録などの「チャンス」を再認識すること③計画を実現に導くための重要な視点を各関係者の「自立志向あつての連携効果」と「消費者あつての農産物づくり」に絞ったことの3点に特に留意した。

やさしい広報活動

質問 広報紙「静岡気分」の現状と、インターネット環境がなく、問い合わせの電話もつながりにくい場合の対応について聞きたい。

答弁 「静岡気分」は、26年度から月1回の発行に変更し、市民の皆さんからは、市政情報などが月毎に集約され分かりやすくなったとの意見をもらっている。一方、掲載記事1件あたりのスペースが小さくなったため、詳細情報については、ホームページや問い合わせ先の電話番号を紹介することがある。

ホームページが閲覧できない人や、問い合わせ先の電話が混みあっている場合があるため、「やさしい広報活動」として8時から20時まで年中無休で市民からの問い合わせに応じる市のコールセンターを案内しており、ぜひ多くの人に利用してもらいたい。

ふるさと納税の返礼品

質問 ふるさと寄附金への返礼品をこのタイミングで導入することになった理由、ポイント、返礼品の内容等について問う。

答弁 返礼品という仕組みが定着し、地方創生の観点から大幅な制度拡充が行われたなど、制度が成熟し実施に向けての環境が整ったこと、さらに市民の協力を得て駿府城天守台発掘調査に取り組むこととしたことから、このタイミングで導入するべきと判断した。ポイントは、単なる寄附金集めではなく、本市の魅力や施策を発信するシティプロモーションの一環として活用することである。

このため、返礼品には「静岡市が誇る地域資源」や「各種体験チケット」等のカテゴリーから、現時点では30種類程度を想定しており、今後、具体的な返礼品を決定していく。

会津若松市「白虎隊」^{しょうへい}招聘

質問 徳川家とゆかりの深い会津若松市の「白虎隊」を本市に招聘し、同市との交流を深めていく考えはないか。

答弁 会津若松市と本市は、徳川家ゆかりの都市同士であり、「白虎隊」の悲劇は長く日本人の心に刻まれている。家康公350年祭では、久能山東照宮において会津高校の生徒による「白虎隊」剣舞が奉納されており、400年祭で奉納を行うことは、時宜を得たものと考えている。また、家康公ゆかりの浜松市、岡崎市に加え、会津若松市との交流は、本市が有する歴史資源をみがきあげるうえでも重要である。

今後「白虎隊」を招聘するための実行委員会が設置され、平成28年4月の来訪に向けた動きが具体化してくると聞いており、連携して実現を目指していきたい。